

アラウンド GOGO 55

「無理しない」を 伝えたい

輪湖悦子



今、母の介護をしている。

母は介護度5で自分では動くことはできず、食事もミキサー食の全面介助。母の認知症が出てきた頃、私が手術入院をすることになり老健施設にお願ひした。それがもとで認知症がますます進み、歩けなくなってしまった。5年ほど施設にお願ひしていたが、だんだんに衰弱してきていたので、最後は家での思い、退所して在宅介護に移した。

在宅にして2か月程経った時に具合が悪くなり緊急入院。医者に覚悟するように言われたのだが、なぜかその後、めきめき元気になった。ケアマネさんも驚くほど。

在宅介護を始めてもうすぐ3年目に入る。この間、ケアマネさんやヘルパーさん、デ

イヤショートステイでお世話になってる施設の職員さんに助けられながら、何とかやっている。私自身、だいぶいろいろなミキサー食を作るコツも覚えてきた。

介護に関わる方たちと接して、勉強になった。手抜きをしている私に「それでいいよ。無理しない」と認めてくれたり、学生時代の友人から会おうと言われたが：と話す、と「それは行つてきて！」と何とかショートステイを入れてくれたり、在宅介護を丸ごと応援してくれている安心感がある。

このあいだ、寄宿舎で出会ったお母さんが「思っているほど世の中優しくないんだよね」と寂しくつぶやいた。施設を運営するなど、「しっか

りした保護者」と言われている人だ。私自身、障害を持っているお母さんのお母さんたちに、「大丈夫だよ。無理しなくていいよ」とどれだけ伝えていたろうかと反省。最近職場で思うのだけれども、マニュアル的な仕事の仕方が増えていて、相手のことを想像する力が弱ってきているのかな。もつと温かみのある関わり合いができると思いながら、もつと勉強しなくては！とも思っている。

そして今、退職まで何年と数えて片手で足りるようになって、密かに退職後に人がほつこりできることを何かしよう、と、あれこれ考えているところである。

(長野 安曇養護学校寄宿舎)